

返信

パウエル氏と パクウォツニ 会議について どう—— 活—合—つ—ま—ました。

彼は、パクウォツニ 会議が、米、ソ代表^{政府}たちの 活—合—の 場所

となりかねないを、中国 研究者がまう—— 孤立する ことを大変

心配—ておりました どう—— ニュアンスにとんち 中ソ 論争につい

この彼の 見解は、又 仰目に いかした 折に お伝えの きますと 思—ましたか

日本の 研究者 たちの 多くの 人々と、大 伴 同—と—を 考—え—る—

とくに 強調—して—た 点を か—ま—す—と、

一、パクウォツニ 会議に、日本の 研究者も、 会議の 基本的な

性格につい、 提案される ことか 大 変の 出来—い、 ことに ひん び—る—

会議が、せい、軍 備の 技術 問題に 限定—する—も、 なく 将来を

見 通—了 議 論の 重要—な—事—を、 直—言—な 時には 提 案—する—こと

を 期 待—して—いる。

二、世界 科 運に、日本の 研究者の 声—が—正—し—つ—た—え—ら—れ—る—よう—に、

的—か—り—して—いた—り—ぬ—ち—う—う—か、 今の 代表—は、 物理—学—者—たち—とは

全—く—異—な—な—れ—て—あり、 且、 せ—や—め—て、 か—た—く—な—な 考—え—方—の 人—々—なの—と

な—ま—つ—て—いる。

- 三. 中国の科する者と日本の科する者とかたえ下. ころうとを 持たせる
ことを望むが、中国科する者は 現在の 路線を いかなる 時にも
かえりしとしないなる。
- 四. パカウツニ 会議を 携来 日本に 用いて いたる 可能性
があれば 大変喜ばしい。 どの ような もの か どうか。
- 又、自分は 一月に スイートに 来るか 直ちに 本国に
歸る ぬは なるぬの。 日本には よれない。